

第8回新城市若者議会

令和6年11月5日（火）午後7時00分～午後7時53分
新城市議会 議場

開 会 午後7時00分

1. 若者議会議長あいさつ

○梅田禪之助議長 若者議会議長の梅田です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。

ただいまから第8回新城市若者議会市長答申を行います。5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、様々な活動を行ってきました。8月の第5回の若者議会では、政策中間報告を行いました。その後も担当課職員の方々からアドバイスや意見をいただきながら話し合い、令和7年度若者予算事業計画を策定いたしました。本日は、若者議会市長答申として、3つの事業を説明します。

2. 事業報告

○梅田禪之助議長 初めに、未来の育み手委員会による「TUSNAGO～未来共創プロジェクト～」です。お願いします。

発表者は、加藤 廉（かとう れん）委員、菅沼 堅太（すがぬま けんた）委員、木戸 ゆめ（きど ゆめ）委員、片桐 萌絵（かたぎり もえ）市外委員です。よろしく申し上げます。

○加藤廉委員 未来の育み手委員会の発表を始めます。

事業名は、「TUSNAGO～未来共創プロジェクト～」です。本事業名は、「若者と子ども」「若者と地域」など人と人々が繋がることで、新城市を市民が共につくっていくことを目的としています。「繋がる」ことを「TUSNAGO」と表現することで、一緒に繋がり合おうというメッセージが伝わるようにした。また、インパクトを持たせ、記憶に残る政策となるようにローマ字表記にしました。未来を共につくっていく仲間が市内が増えて欲しいという想いを込めて、“未来共創”の言葉も使いました。

この委員会は、未来の担い手を育むための政策を考えました。私たちの目指す新城市の未来とは、新城市で子どもを育てたいと思う若者が増えること、そして若者と地域の人繋がるまちです。以上、2つの未来を掲げ、その達成に向けて政策を2つ提案します。そして、僕たちは未来の育み手委員なので、ここからは紙芝居で説明していきます。

○未来の育み手委員会 はじまり、はじまり。

○片桐萌絵市外委員 一つ目。

○未来の育み手委員会 若者と子どもの交流。

○片桐萌絵市外委員 私たちの親世代は兄弟や親戚が多かったため、学生の時には幼児と遊んだり、面倒を見たりする機会がいっぱいあったみたいだよ。

○未来の育み手委員会 そうなんだ。

○片桐萌絵市外委員 でも、今は一人っ子や核家族世帯が多いため、中高生、大学生等が幼児に関わる機会が極端に減り、将来子どもを育てたり、関わったりするイメージをしにくい環境にあるんだ。だから、若者と子どもの交流の場を作ることで、若者は子どもたちへの共感力や思いやりを身に付けながら、子育てや将来について考えるきっかけを作ることができるよ。また、子どもたちは中高大、専門学生のお兄さん、お姉さんとのコミュニケーションの中で社会性や創造性を養うことができるんだ。政策案の詳細について紹介するね。

○菅沼堅太委員 なに、なに。

○加藤廉委員 お願いします。

○片桐萌絵市外委員 じゃあ、説明するよ。
この政策は若者と幼児が交流するイベントだよ。ターゲットは幼児、約3歳から5歳、その親と中高生、専門学生、大学生の若者だよ。イベントの時間は、幼児と若者が一緒に楽しく遊べる、約2から3時間を目安としているよ。幼児は普段できない遊びを若者と一緒に体験できるよ。若者は、イベントを企画・運営する実行委員や、当日、幼児と一緒に遊ぶボランティアとして参加し、交流するよ。幼児と若者が一緒に楽しめるように、工作体験やトレットペーパー、絵の具、段ボール、ティッシュなども用意するんだ。また、新城にはめったにこない遊具も設置するよ。

○未来の育み手委員会 やった。

○片桐萌絵市外委員 昼食や軽食を取れるように、キッチンカーも呼び、集客を図るよ。イベントの周知方法として、幼児に向けて、市内こども園や児童館、子育て支援センター、市役所などにA4チラシを設置するよ。若者に向けては、市内の中学校、高校、専門学校や市内の3駅、市役所及び公共施設などにチラシを設置、配布するよ。他にも市SNS等を活用するんだ。

最後に、費用について説明するよ。想定される費用は、委託料の498千円だよ。

○木戸ゆめ委員 2つ目は。

○未来の育み手委員会 ボランティア人材バンク。

○木戸ゆめ委員 新城市社会福祉協議会の方のお話によると、コロナ禍を境にボランティアを主催する方、参加する方の高齢化が進んで、地域活動などの担い手が減っている現状があると聞いているよ。実際に社協にボランティアの募集の依頼があり、公式LINEに情報を流しているそうだよ。地域活動の担い手の高齢化は、地域の繋がりをなくしてしまうよ。そうすることで、地域が活性化しなくなったり、活気のない静かなまちになってしまうみたい。

○未来の育み手委員会 嫌だ。

○木戸ゆめ委員 嫌だよねえ。

一方で、盆踊りに中高生及び若者が参加したことで、高齢の方々が、例年以上に楽しむことができた様子だったと聞いているよ。このように、若者が地域に入ることによって、少しでも盛り上がることもできることがわかるね。現在、千郷中学校では、「ちきボラ」というボランティアを募集する仕組みがあるみたいだよ。多くの生徒が参加していると聞いているよ。

また、新城有教館高校では、ボランティア部があって、市内の日本語教室や、今年夏に千郷小学校で開催された盆踊りに多くの生徒が参加したと聞いているよ。この2校以外の中学生や高校生も学内で留まらない活動を求めていると考えられて、その経験を生かして自分のキャリアを描いていく仕組みが必要だと考えたよ。

イベント主催者のボランティアが欲しいという需要と、ボランティアに参加したいという供給が釣り合っているよ。この事業は、ボランティア人材が必要な団体とボランティアをしたい若者が繋がることのできる機会を提供して、持続的に地域活性化できるまちを目指すよ。

政策について紹介するね。ターゲットは、地域活動団体などと中学生以上の若者だよ。ボランティアは必要とする団体は、市にイベント情報やボランティアに関する情報は提出するよ。その情報を、ボランティアをしたいと思っている若者に市が情報提供をするよ。ボランティアをしたい若者は、事前に市に登録しておくよ。その情報をメールなどで手に入れることができるよ。

○未来の育み手委員会 やってみたい。

○木戸ゆめ委員 やってみたいね。

周知は、市内の中学校、高校、専門学校や市内の3駅、市役所及び公共施設などに、この新しい仕組みを周知するためのチラシを、配布する予定だよ。その他にも、市内のSNS

Sなどを活用する予定だよ。

最後に、費用について説明するね。想定される費用は、チラシ、ポスターの印刷製本費92千円となるよ。

これで、紙芝居での説明はおしまい。

○菅沼堅太委員 私たちはこれらの政策で、若者が将来子どもと関わるイメージを持ち、新城市で子どもを産み育てることのイメージ付けに繋がること、高齢化している市内の活動やイベントに中高生をはじめとした若者がボランティアという形で参加しやすい環境をつくることは、新城市が持続的に発展していくことに繋がると考えます。

以上のことから、新城の子どもと触れ合うことに関心の高い若者育成ができ、新城市の担い手になると考え、私たちは政策を提案します。

○梅田禅之助議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、まちづくり委員会による「新城魅力探しの旅事業」です。お願いします。

発表者は、橋本 愛那（はしもと あいな）委員、城所 英汰（きどころ えいた）委員です。よろしくをお願いします。

○城所英汰委員 まちづくり委員会の事業「新城魅力探しの旅」の発表を始めます。

新城市の若者は新城市には何も無いんだという人が多いと思います。しかし、私達はこの地域が好きでまちづくりに携わりたいという思いを持ち、若者議会に参加しています。実際には魅力ある観光地を知らないことや、地域資源の魅力に気づけていない人が多いことに危機感を持ちました。

新城市の魅力ある地域資源を知らないことで、若者が地域の魅力を話せない状態になってしまい、新城市に誇りを持っていないことで、市内から市外へ出てしまっている人も多いのではないのでしょうか。

そんな現状を改善するために、まちづくり委員会では「誇れるものがあるまち」そしてその「誇れるもの」を共有するための交

流の機会を提供すること」を目指します。

新城のことを今よりもっと多くの人が好きになって、語れるようになり、新城を出た人も戻ってくることはできなくても関わりたいと思えるようになると考えました。

○橋本愛那委員 私たちまちづくり委員会は2つの政策を提案します。

1つ目は「新城を駆け巡れ シンコウリュウ」です。新城市は電車やバスの本数が少なく、車を持っていない世代や人は、電車やバスの時間に生活が左右される状況にあります。駅やバス停が無い場所に行くには時間だけでなく労力もかかります。また、電車やバスで移動した先の交通手段である二次交通も整備されていません。これらの課題を解決するために、レンタサイクルの推進を行います。

市内でアンケートをとり、レンタサイクルの需要を調査するとともに、若者ならではの目線でレンタサイクルのステーションの設置場所などを提案します。また、アンケートを行うことでレンタサイクルについて広く認知する事にも繋がります。

レンタサイクルの推進を行うことで、自動車保有していない若者世代や、免許を返納した高齢者の足としてレンタサイクルを活用でき、移動の選択肢を増やすことができるほか、二次交通としても活用できるようにすることで新城市全体の活性化を図ることができます。想定される費用はありません。

2つ目の政策は「さあ開こう 新城ワールド」です。

昨年度の若者議会の政策である、「つながる地域と若者の輪」のアップグレードを実施したところ、非常に好評だったことから、事業規模を拡大して実施します。まず、開催地域を一箇所から各地域自治区に広げます。そして、参加した市内の中学生が自分の住んでいる地域のことだけでなく、他の地域のことについても知ることができるよう、発表を新城文化会館にて全地区合同で行います。その後、発表の内容を若者議会に共有する仕組みづくりをします。

自分たちの住んでいる地域について学んだ後に、市内の他の地域についての発表を見ることで、地元、新城市に誇りを持ち、それを発表する機会を提供できます。想定される費

用は印刷製本費35千円、消耗品費17千円、施設などの使用料45千円の、合計97千円です。

以上でまちづくり委員会「新城魅力探しの旅」の発表を終わります。

○梅田禪之助議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、若者政策委員会による「若者政策10周年記念事業」です。お願いします。

発表者は、青木 ことみ（あおき ことみ）委員、川合 美緒（かわい みお）委員、峯田 恵太（みねだ けいた）委員、古瀬有菜（ふるせ ゆうな）委員です。よろしくお願いします。

○青木ことみ委員 若者政策委員会の発表を始めます。

この委員会では、新城市の若者政策10周年に関する事業と若者総合政策の更新の2点について検討してきました。

まずは10周年に関する事業について報告させていただきます。事業名は「若者政策10周年記念事業」です。10年間の若者議会の実績を踏まえ、改めて「若者が活躍できるまち」とは何かを考え、その実現のために、この新城市若者議会が新たなスタートを切ること、そして、新城市民や全国の若者などを巻き込んで、新たなまちづくりを形作ることを目指します。

今回私たちの提案する若者政策10周年記念事業では若者議会をより一層盛り上げるとともに、市民の方々、特に市内の若者に、若者議会の10年の実績を通して、まちづくりに興味を持ってもらうこと、ゆくゆくは全国の若者が互いの活動を知り、互いに高めあいながら、日本全国に若者が活躍できるまちを広めていくことを目的とします。

政策案の詳細についてご説明します。

まずターゲットとしては、先ほどの事業の目的に適合するよう、市民、そして市内、市外を含めた、全国の若者及び若者団体を対象とします。

政策案の概要としては、若者議会10周年

の周知、活動報告、及び「若者が活躍できるまち」を目指す10周年イベントの企画、記念グッズの制作、PR活動です。

○川合美緒委員 イベント企画についてご説明します。

イベント内容には、若者政策について学んだり共有したりできるような、いわゆるまじめな内容と若者をひきつけるためのアトラクションのような内容を共存させ、若者政策に興味がある人も、ない人も、どんな人でも若者議会が提案したイベントに関わって、若者がまちづくりに興味が持てるようなものとなりました。

イベント企画では大きく分けて4つの内容を実施します。

1つ目は、講演会です。参加する若者が、「自分たちも頑張りたい」と熱意を持てる、熱くなれるような講演や、市外の若者団体の事例発表や、若者議会10年の成果報告を通して、仲間の実績や活動を知り、高めあうことのできる発表、若者議会経験者による「若者議会経験談」などがこれにあたります。

2つ目は、ワークショップです。テーマを設け、それについて参加者みんなで議論をします。詳細については今後検討していきます。

3つ目はキャンプファイヤーです。市民も含めて、若者の活気を感じ、若者の活躍できるまちづくりを表現できるような場にしたいと考えています。

また、加えてここには若者が本音をぶつけ合えるような場を設けたいと思っています。

4つ目は、市民の方が楽しめるような工夫です。例えば、市民の方が若者議会について知ることができるよう、成果報告のパネル展示や、イベントをより盛り上げるためのキッチンカーなどを呼ぶことがあげられます。

○峯田恵太委員 続いて、記念グッズの作成についてです。これまでの若者議会のパンフレットなどと一緒に配布できる不織布のトートバッグや、実用性の高いメモ帳や、ウェットティッシュ、若者議会のPRにつながるステッカーを作成しようと考えています。これらは先ほど話した、10周年記念イベントやまた次に話すPRで、若者議会が10周年であること、そして若者議会自体を周知するた

めに活用していきます。

最後にPRについてです。

消防祭や軽トラ市をはじめとした既存の新城市のイベントに若者議会としてブースを出店し、先ほど紹介した配布用のグッズやこれまでの成果物の展示、また若者議会のプロモーション用ののぼりや法被などのグッズ、動画等を活用しながら、若者議会自体の認知度を高めるとともに、イベント参加者に対して若者議会のイメージ調査等を行うことによって、これからの活動につながるような機会にしていきたいと考えています。

この事業にかかる想定費用については、グッズ作成を含む10周年記念イベント委託費が1,368千円、市外若者団体講演者の謝礼として4千円、交通費が36千円、新城文化会館の会場使用料が58千円、10周年イベントのワークショップ用の消耗品費として4千円、合計1,470千円の予定です。

○古瀬有菜委員 続いて、私からは10周年に合わせた若者総合政策の見直し及び更新についてご説明します。

中間発表後、私たちの委員会では若者総合政策の見直しにあたって、立ち上げに係わっていた方などにインタビューを行い、創設当時の思いや更新にあたっての助言をいただきました。いただいた助言を踏まえて、これまでの若者総合政策を見直したところ、「若者が活躍できるまち」を実現するための4つの根幹の方針はしっかり定まっていたものの、抽象的な言い回しであり、若者議会を通して若者総合政策を具体策に落とし込めるようにするには細かい内容を立てる必要があることが見えてきました。

また、若者総合政策があることで、新城市に関わる若者が自身やまちの未来を想像でき、わくわくできるように後押しするものにしたという共通認識を固めました。

具体的には、SDGsのように、いくつかに達成項目が分かれているロードマップをイメージしており、これから若者総合政策をもとに事業を作る若者議会のメンバーたちが進捗状況を目で見ても実感できるような形式を作っていきたいと考えています。私たち若者の思い、これまでの若者総合政策、これまで提案されてきた若者議会の事業をベースに、

次の10年に向けた新しい総合政策の素案を、今年度3月を目途に完成させることを目指します。完成したものは、冊子やHP等の媒体で公表し、10周年記念イベントで発表を行います。

若者総合政策の更新の費用については、新しい若者総合政策の冊子作成に伴う印刷製本費396千円を想定しています。

以上の事業等の実施により、イベントなどを通して参加者の若者や若者議会のメンバーが過去の若者議会の活動や他の事例、他の同世代の思いなどを知ることで、新たな刺激を受け、それぞれの活動や新たな行動につなげることができ、「若者が活躍するまち」の形成が推進される、と考えます。

以上で若者政策委員会の発表は終わります。

○梅田禅之助議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。

○牧野市民自治推進課長 それでは、3つの事業の説明が終わりましたので、若者議会から市長に答申を行いたいと思います。若者議会議長は演壇前へ、市長は演壇へ移動をお願いします。

3. 答申

○梅田禅之助議長 若者総合政策の実施に関する答申書。

新城市若者議会は、令和6年5月9日付け新市自6・2・4で諮問のありました若者総合政策の実施に関して、令和7年度若者予算事業計画を策定しましたので、以下のとおり答申します。

令和7年度新城市若者予算、予算総額2,553千円。

1 TSUNAGO～未来共創プロジェクト～、590千円。若者に新城市で子どもを産み育てるイメージを持ってもらえるように、若者と子どもの交流イベントを開催します。また若者が地域と繋がるまちを目指し、地域活動に参加できるきっかけ作りのためのボランティア人材バンクを作ります。

2 新城魅力探しの旅事業、97千円。
新城市のことをさらに好きになり、自分のまちの誇れるものを語れるようになることを目指し、レンタサイクルを推進します。また、つながる地域と若者の輪事業の規模を拡大し、各地域自治区において開催します。

3 若者政策10周年記念事業、1,470千円。若者政策のこれまでの10年を振り返り、新しい視点や刺激を得た上でこの先に向けた新たなスタートを切るために、10周年イベントの開催、記念グッズの作成、既存イベントにおけるPR活動を行います。

4 若者総合政策の更新、396千円。
若者総合政策に基づく今までの事業を振り返りながら、現在の若者の状況やニーズ等を反映させた新たな若者総合政策を策定します。

令和6年11月5日、新城市市長下江洋洋様。

新城市若者議会議長、梅田禅之助。

○牧野市民自治推進課長 自席にお戻りください。

4. 市議会議長あいさつ

○梅田禅之助議長 それではお忙しい中、出席していただきました新城市議会議長、長田様からごあいさつをいただきたいと思います。

○長田共永市議会議長 この議場に初めて足を運んだ時の皆さんの顔と比べ、今の顔は少しホッとした様子、そして逞しくなっていると思います。

今日の答申は、君たちにとっても、このまちにとっても大きな一歩である、それは断言できます。そして、この答申を、議会としても応援していくということは間違いありません。議会だけではなく、大人としても、若者の意見、こちらに耳を傾ける。それは大切なことだと思います。ただし、本日の答申はまだ君たちにとって、何も始まっていません。きつい言い方をすると、まだ、これではダメです。ダメで当たり前です。今君たちが、答申がすべて100点を取ったら、まちづく

りとしては面白くない。これからそれぞれの事業を切磋琢磨して、まだまだ変えていけるはず。そして、来年度の事業をきっちりやっていくことが議長としての願いです。

君たちには無限の可能性がある。社会を変えるのはいつも若者である。これは間違いない事実です。それをきちんと、大人として応援していく。それも約束していきたいと思えます。その中で、個々の事業について詳しくどうのこうの言うつもりはありませんが、まず、紙芝居面白かったです。元気な姿を見て、うれしいなと思いましたが、どこ行くんだということです。自身はこのまちのすべての人が、一人一人が、一NPOを持っているそんなボランティアの意識を持ってほしいなと思っています。例えば赤ちゃんやお年寄りも元気。それだけで、このまちにとって財産です。若者は若者らしいボランティアの活動があるでしょう。そして、大人は大人の、このまちの未来を繋ぐやり方がある。色々な可能性のある事業だと思います。

そして、新城魅力探しの旅事業。よく言われることですが、新城のまちには魅力がない。魅力はあるはず。魅力がないと聞くと私がこの場で言うことがよくあるのですが、新城には何もないという話になると一冊の本の話をして。「希望の国のエクソダス」村上龍が書いた有名な小説です。これは中学生が反乱を起こすという近未来の小説で、そのセリフに「この国には、何でもあります。本当にいろんなものがあります。だけど希望だけがない。」という一文があって、当時大人たちはその文章に熱狂したが、私はそれは間違いであると断言できていると思っています。事実として、このまちには魅力があると気づいたのは、それだけで君たちは、このまちに魅力があるから、このまちを良くしようとそこに気付いたのではないかと、改めてその気づきを大切にしてほしいと思います。

10周年事業に関してですが、君たちが

思っている以上に若者議会というのは、注目されています。新城市議会に視察に来るほとんどの事業が、視察対応は若者議会について、これが一番大きいことです。君たちは若者議会の委員であることに自信を持ってほしいし、最初に君たちに会った時から、若者議会条例を読んでくださいと、なぜこのまちに若者議会条例があるか、そのことも伝えたいと思います。改めて東三河には、多くのまちで若者議会、同じようなものが、これは日本全国、同じような活動をやっている自治体は多いです。簡単なことか、難しいことかわかりませんが、これ全部呼んじゃえばいいじゃないのと思います。そして乱暴な言い方をすれば、この3つの事業が共通することは、全部あるんだから、若者の日を制定して、全部同じ1日でこの事業をやれる。そんな思い切った考え方もあると思うし、それぞれが別の方法で考えていく。まあ色々な考え方がありますが、料理の世界にまずい食材はないと言われております。その食材を生かすことができない料理人がいるだけだという言葉もあります。その中で、君たちには答申という食材を出していただきました。改めて、新城市議会議員との施策に対する意見交換会があると思います。我々大人は、君たちのような若い芽を摘むつもりもないし、君たちがこのまち、そして、この国の未来であり、光であると感じている。それを言わせていただいて議長からの挨拶とさせていただきますと思いますが、最初に会った時に個人的な宿題を出させていただいたと思うのですが、娘からまだ時々SNSがブロックされる時があるのですが、その解決方法。笑っていいところですので、笑ってください。そんなことも考えながら、その宿題を誰も答えてくれない。それはあなたのせいだといわれるのが答えですが、それを踏まえていろんなことを、話し合っただけで君たちを応援していくということを述べて、議長からの挨拶とします。頑張りましょう。

5. 市長あいさつ

○梅田禅之助議長 ありがとうございます。最後に、下江市長からご挨拶をいただきたいと思います。

○下江洋行市長 ただいま梅田議長から若者総合政策の実施に関する3つの事業、そして若者総合政策の更新についての答申書をしっかりと受けとめました。5月に諮問させていただいてから、途中8月に中間報告をしていただきまして、この先どういう方向に進んでいくのかなんていうことを思いながら、本日、皆さんが、半年間にわたって、本当にしっかりと検討していただいた、皆さんの気持ちがかもったご提案をいただけたことを大変うれしく思います。まずは感謝申し上げます。

そして同時に各事業について、今日説明を聞きましたので、少し、1つずつ、私の思ったことなどをお伝えしたいと思います。

初めに、未来の育み手委員会の提案でありますTSUNAGO～未来共創プロジェクトからであります。紙芝居を交えて、皆さんのチームワークの良さが本当にしっかりと伝わって参りました。このチームワークを生かして、3月までに、さらにしっかりと内容を詰め、固めていただきたいなと思います。

新城市では、先月でありますけれども、市内の中学校の家庭科の授業で、いのちの授業という授業を行いました。中学校3年生の生徒さんに、まだ生まれて半年も経っていない赤ちゃんから1歳過ぎたぐらいの赤ちゃん、そのお母さんと触れ合い、交流をする機会を授業として行いました。結婚する前の男女の約6割近くが、赤ちゃんや子どもと触れ合ったり、関わったりしたことがないというのが現実なんです。そういう機会は、これから将来、若い男女が家庭を持って、子どもができて、そして自分がどういうライフデザインを描いていくかっていうことを考える上でも、必要なことだと思います。これを来年、市内に6中学校ありますので、横展開していきたいと思っております。そうしたことから、皆さんが考える若者と子どもの交流イベントの開催ということ、これは同様に重要なことであると思っておりますので、しっかりとこの事業に

については、皆さんの考え方を基に、力を入れていただきたいと思っております。

そして、ボランティア人材バンクを作るという提案でありましたけれども、今新城市の15歳から64歳までの、いわゆる生産年齢人口という言い方をするんですけれども、大体全人口に占める割合が52%ぐらいなんです。年々減少してきていますし、これからは65歳、さらに70歳過ぎた年代の人たちには、しっかりと自身の健康管理をしていただいて、就業もあり、そして地域活動の参加あり。それを自発的にやっていくということが求められます。それとあわせて、若者がサポートして、生産年齢人口の低い割合をカバーしていくということがこれまで以上に求められますし、地域の皆さん、また各団体の皆さんは、そうした自発的な若者を待ち望んでいると思っております。繰り返しになりますけど、自発的な社会参加率をどれだけ上げていくことができるかどうかということが、この新城市のまちづくりの持続可能性にかかっていると言っても過言ではないと思っておりますので、こうした取り組み、しっかりとまず第一歩を踏み出し、そして持続していく取り組みにしていきたいなと思っております。

まちづくり委員会からご提案いただきました新城魅力探しの旅事業であります。自分のまちの誇れるもの、皆さんそれぞれあると思います。新城の誇れる宝というのは、ここにいるみんなが、私が思っているものすべて、この地域の宝だと思っております。

わかりやすく言うと、都市部、例えば豊橋市とか名古屋市とか浜松市とか、静岡市とか、そういう都市部の方が望んでいるものは、都市部にないものを望んでいるんです。ですから、やっぱり田舎で、田舎暮らしがしたいという人もいるし、それから週末になったら、自然豊かな環境のこうした新城市の中山間地域に遊びに来る、そういう行動をとるわけなんです。都市部の人にとっては、都市部にない、望んでいるもの、それがすべてであるのがこの新城市のような中山間地域であります。ですので、私たちの地域には自慢できる宝、これは観光資源とかそういうことだけではなくて人も含めてであります。そうしたものがしっかりある地域でありますので、ぜひ、こ

うした資源を生かしていただく取り組みになるように期待をしております。

そして、レンタサイクルの推進も大変期待しております。9月8日にモビリティフェスタを開催しました。参加していただいた方もいらっしゃると思いますけれども、これは単なる自転車のレースをやるためのイベントではなく、この自転車もそう、もちろん自動車、そして公共交通のバスもそう。さらにはそれ以外の乗り物もそう。あらゆるモビリティの可能性を追求して、この自転車のまち新城という取り組みが定着して、それがまちづくりに繋がっていくことを目標にしている事業であります。第1回目、この事業を推進するのは本当に大変でした。ですが、無事に第1回目を開催することができましたので、これをきっかけに、自転車のまち新城の定着に向けて、また皆さんのレンタサイクルの推進の取り組みも、応援していきたいと思っております。

そして、つながる地域と若者の輪を広げていくという事業でありますけれども、今年度、鳳来東部地区で行いました。私もワークショップの様子を見させていただいて、皆さんの本当に一生懸命やっている、1日に、わずかな時間ですけれども、参加させていただきました。新城市には10の地域自治区がありますので、これを本当に、展開していくというのは、かなり労力の要る事業になると思いますけれども、今年の開催の様子を見て、それぞれの地域自治区の地域の皆さんは、そうした若者の取り組み、また若者がそういうことを地域に働きかけてくれることを待ち望んでいると思います。ですので、大変マンパワーの面とか労力要る事業になるかと思っておりますので、それに必要な、また行政のサポートもしっかりと考えていながら、この事業が成功するように、皆さんで取り組んでいただきたいと思っております。

そして、最後に、若者政策委員会からご提案いただきました若者政策10周年記念事業であります。若者議会、若者政策のこれまでに至る10年の積み重ね、この実績は、私たちのこの新城市だけにしかない、若者の活躍できるまちづくりの大きな大きな礎になっています。ですから皆さんは、自信を持っていいと思うし、自信持っていてほしいと思

ます。

総合政策の見直しについては、大胆に見直すというよりも、やはりこの若者総合政策に参加してみたくなるような仕組み。そして若者から斬新なアイデアが出しやすいような仕組み、環境を基本に考えていただきたいと思っております。これは前回の中間発表のときにも同じようなことを言いました。それをやはり考え方の基本に置いて欲しいという私は思っております。そして、その素案を3月に完成して、お示しいただけるということがあります。この若者議会10年の節目を、さらなる次のセカンドステージにつなげて大きく飛躍していくことができるようなご提案を考えていただくことを期待しております。

そしてやはりそのためにも、この市内だけでなく市外、そして県外、さらには海外のユースとの交流の場をもっともっと広げて、外の幅広い視点を持って、若者政策に取り組んでいただきたいと思っております。

まとめませんが、皆さんの今日の発表を聞きながら、私が思ったことを伝えさせていただきました。皆さんが本当にこのまちを良くしたいという思いで、ご提案いただいた、それがしっかりと私にも伝わってきましたし、何よりも、大人は、そして地域は、若者の力を必要としております。引き続き皆さんに力を合わせて若者政策推進のために、取り組んでいただくことをお願いします。もちろん、今日はまだ通過点です。これからしっかりと詳細にわたって、皆さんが事業の内容を詰め、そして最終的に令和7年度の新城市の事業として、提案をするという手続きになって参ります。そして、来年の3月の議会に諮るということでもありますので、先ほど議長さんからも皆さんに対する考え方が示されました。しっかりと議会の議員の皆さんとの意見交換でも、皆さんの考え方、提案が、しっかりと伝わるように、これから進めていただきたい、準備をしていただきたいと思っております。

まずは、今日の答申を受けまして、今後さらに、皆さん、まずは3月までの活動に期待をしますとともに、これまでの半年間の取り組みにお礼を申し上げます。

そして、メンターの皆さん、さらに皆さんの活動を理解してくださった家族の皆さん

への感謝の気持ちを忘れずに、この過ごした半年間を、本当に大切に思っただけの半年間、さらに頑張っていたきたいと思います。本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

○梅田禅之助議長 ありがとうございました。この答申を踏まえ、各委員会事業をよりよいものとし、若者が活躍できるまちへ向け、若者議会一同、一致団結して進めて参ります。

これもちまして、第8回新城市若者議会市長答申を閉会させていただきます。

閉 会 午後7時53分